

地震に強い空港のあり方検討委員会

平成 17 年 8 月 18 日

目 次

(ページ)

I 本委員会の概要	1
1 委員会設立趣旨	1
2 委員会スケジュール	1
II 空港における地震対策の必要性	2
III 空港の地震対策の現状	2
1 空港土木基本施設	2
2 土木構造物	2
3 空港建築施設等	2
IV 災害時に空港に求められる役割	3
1 地震災害時において空港が果たした役割	3
2 地域防災計画における災害時に空港に求められる役割	3
3 中央防災会議の方針等から導き出される災害時に空港に求められる役割	4
4 航空ネットワークの現状	4
V 今後の検討の流れ	5

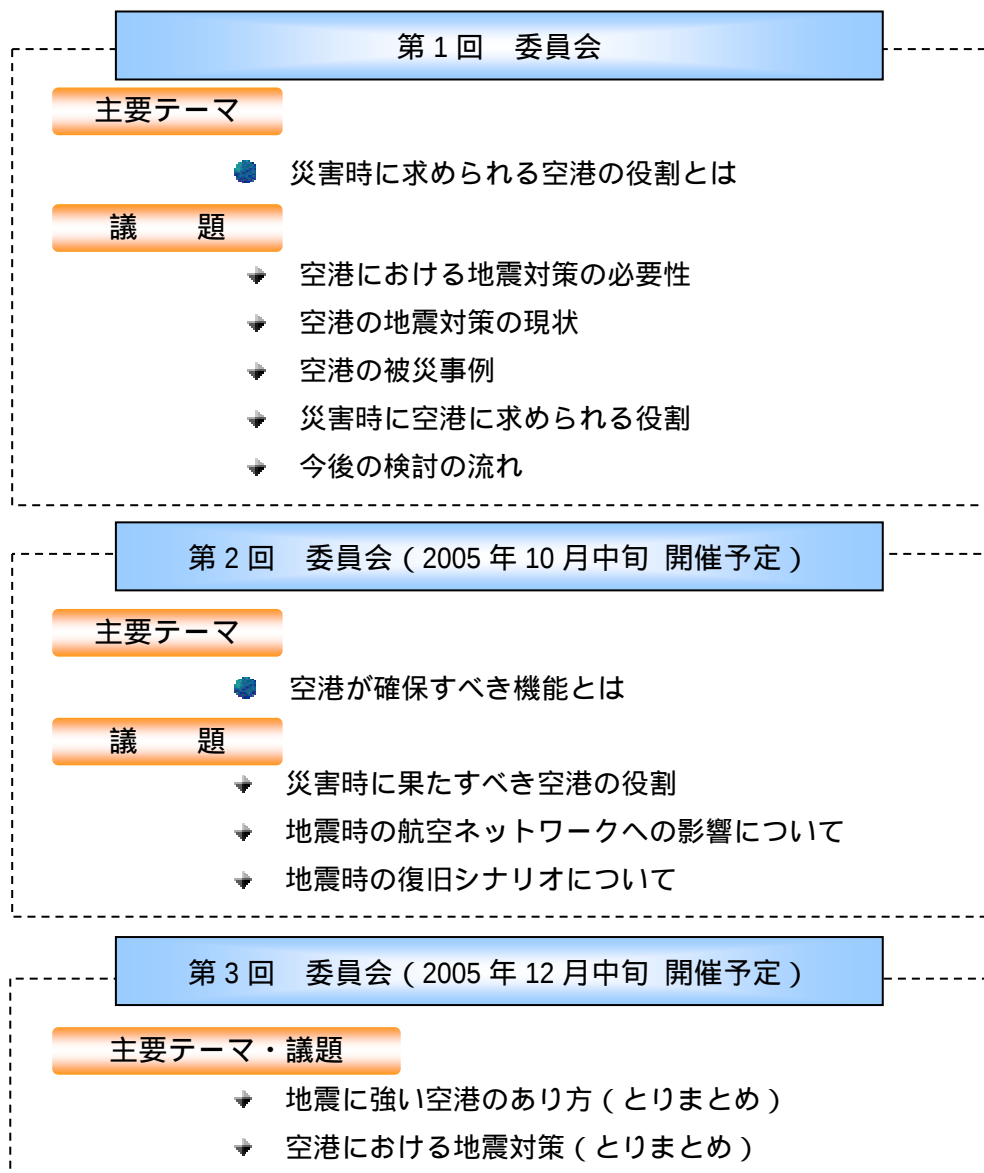
I 本委員会の概要

1 委員会設立趣旨

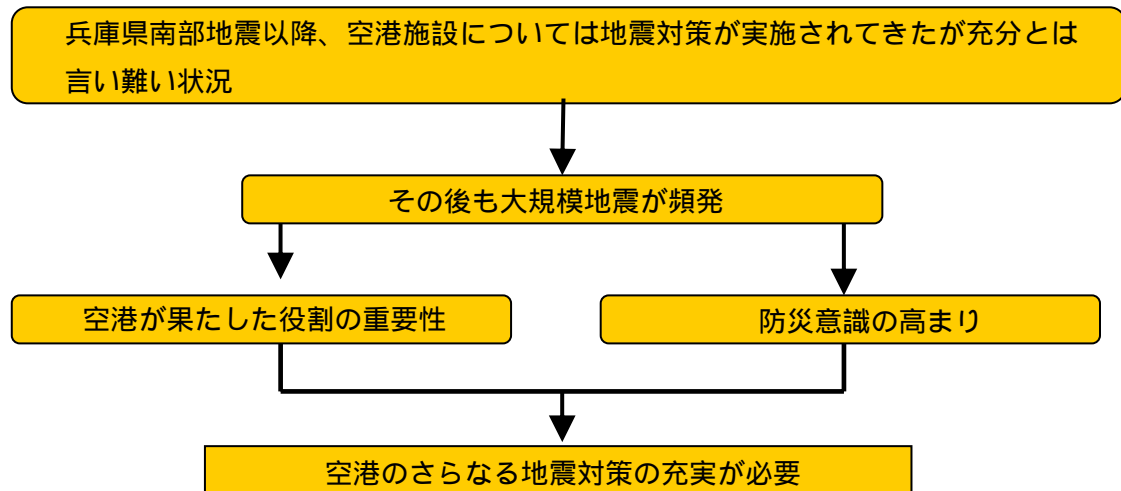
近年、地震、津波等による災害が日本各地、世界で頻発しており、その対応が求められている。さらに、中央防災会議等においても地震対策に関する議論が進められ、国民の防災意識が高まっている。特に、新潟中越地震において新潟空港が災害復旧・復興拠点として果たした役割からわかるように、災害時においても必要な空港機能を保持することが求められている。

「地震に強い空港のあり方検討委員会」では、地震時における空港の役割、航空ネットワークに対する影響等について意見を求めるとともに、空港における防災機能の確保、今後の地震対策等についてとりまとめることとする。

2 委員会スケジュール



II 空港における地震対策の必要性



III 空港の地震対策の現状

航空機運航のための基本的な空港施設等について、空港管理者等から得られた情報をもとに大規模地震（土木：レベル2地震、建築：大地震動）に対する耐震性の現況を整理した。

現況整理の対象空港は100空港（未供用空港の新北九州空港、静岡空港、神戸空港、新種子島空港を含む）とした。

1 空港土木基本施設

- ・基本施設（滑走路、誘導路等）については、地盤の液状化が問題となるが、近年、埋立て等により設置された空港においては建設当初より対策がなされているものの、それ以外の空港については供用しながらの対策工事が困難であることやコストが高くなること等から、液状化調査が未実施となっている空港の割合が全体の約7割を占めている。

2 土木構造物

- ・土木構造物（地中施設、進入灯橋梁、道路施設等）については、一般的な地震動（レベル1）に対する強度確保はなされているものの、大規模地震動（レベル2）に対しては未調査または対策が完了していない施設が半数程度存在する。

3 空港建築施設等

- ・庁舎・管制塔については8割弱の施設が耐震性ありと判断される。
- ・無線機器自体については基準で定められる機器の仕様及び固定方法の採用により耐震性が確保されている。
- ・航空灯火の耐震性については設置される地盤面の耐震性により判断される。
- ・電源局舎及び無線施設局舎については3割程度の施設が耐震性ありと判断され、4割～5割の施設が未調査（新耐震基準は満足）となっている。

IV 災害時に空港に求められる役割

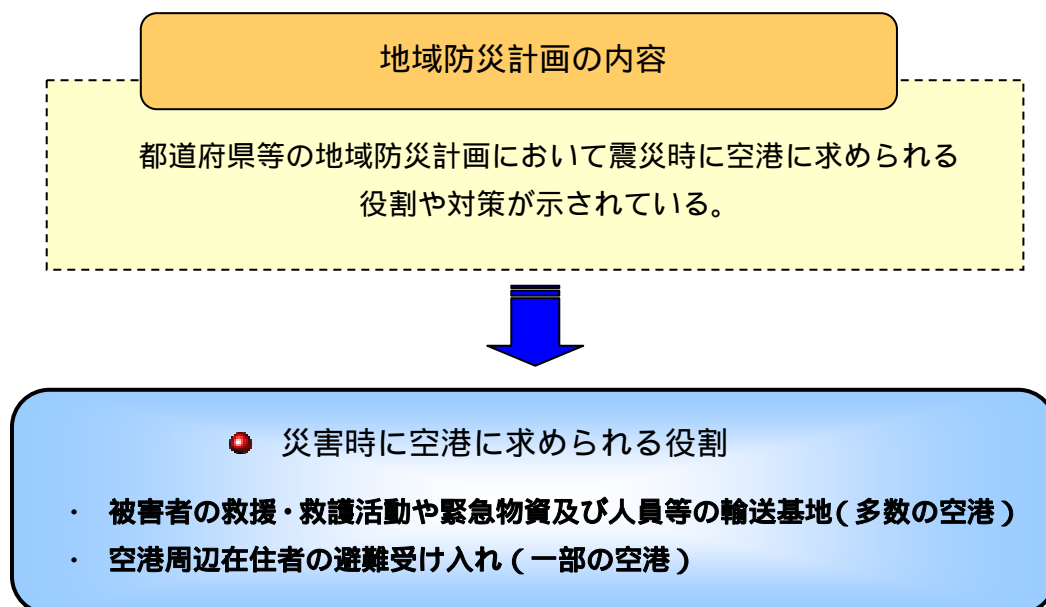
1 地震災害時において空港が果たした役割

兵庫県南部地震及び新潟県中越地震において空港が果たした役割については、主に以下の2点と考えられる。

- 1) 救援活動拠点としての役割
 - ・ 救援物資の受け入れ及び集積基地
 - ・ 被災地への救援物資の輸送
- 2) 地上交通機関の代替機関としての役割
 - ・ 途絶した新幹線の代替機関

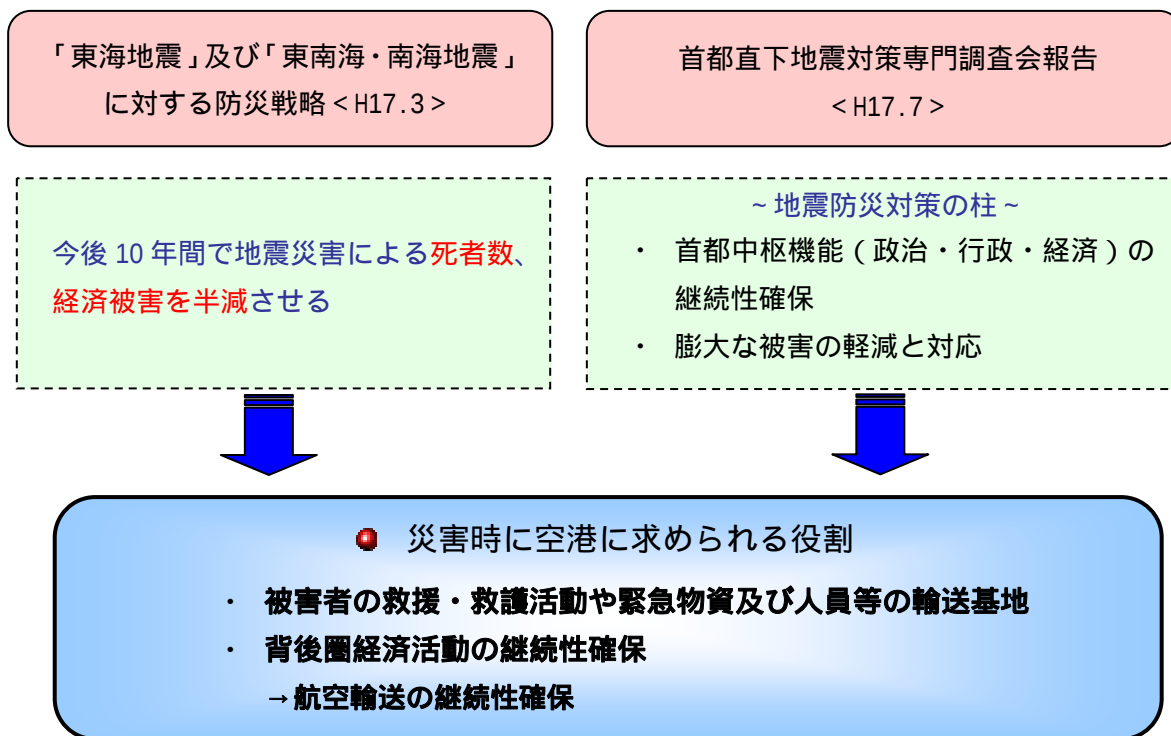
2 地域防災計画における災害時に空港に求められる役割

都道府県等の地域防災計画の内容から導き出される災害時に空港に求められる役割は以下に示すとおりである。



3 中央防災会議の方針等から導き出される災害時に空港に求められる役割

中央防災会議（会長：内閣総理大臣）における地震対策の方針等から導き出される災害時に空港に求められる役割は以下に示すとおりである。



4 航空ネットワークの現状

我が国における航空ネットワークの現状は以下のとおりであり、羽田空港は航空ネットワークを維持する上で極めて重要な位置付けにある。

- ・ 我が国の国内線旅客数は平成 15 年度において 9,549 万人であり、この 62%に相当する 5,941 万人（出発客及び到着客）が羽田空港を、また、67%に相当する 6,359 万人（出発客及び到着客）が新千歳空港、伊丹空港、福岡空港、那覇空港を利用している。（航空輸送統計年報より）
- ・ 航空ネットワークの維持に重要となる航空機の各空港への配置状況（ ナイトステイ状況< 運航時間外駐機状況 > ）を見ると、国内線に投入される航空機の約 31%に相当する 104 機が羽田空港に、また、同様に 31%に相当する 103 機が新千歳空港、伊丹空港、福岡空港、那覇空港にナイトステイしている。

V 今後の検討の流れ

